

『 主にあって喜び、祈り、感謝しよう 』

いつも喜んでいなさい。

絶えず祈りなさい。

すべてのことにおいて感謝しなさい。これが、キリスト・イエスにあって神があなたがたに望んでおられることです。

テサロニケ人への手紙第一 5章 16～18節

主の年2025年、私たちの教会は大変有名な御ことばを年間聖句に掲げて歩んで行きましょう。v18には【これが、神様が私たちに望んでおられること】だからと記されています。いつも喜び、絶えず祈り、すべて感謝することは、一つずつに分離することができません。なぜなら「これらが」ではなく【これが】という単数形で括られているからです。すなわち、いつも喜んでいること、絶えず祈ること、すべてにおいて感謝することは密接に繋がっている一つのこととしてパウロはテサロニケ教会に勧めているのです。しかし一方で大変難しい教えです。いつも喜んでいられるのか、絶えず祈ることができるだろうか、すべてのことを感謝するなんて…。神様はこのことを私たちに願っておられますが、【v18 キリスト・イエスにあって】と教えています。すなわち「主イエスにあって私たちにできることを、神様は望んでおられる」のです。

◆ いつも喜んでいる教会

もし私たちが自らの感情だけに頼るなら、いつも喜ぶことはできません。喜ぼう、喜ぼうと努力しても喜び続けることは困難です。ここで“喜んでいなさい”と訳されている原語は現在能動態です。「どんなに難しくても無理してでも喜びなさい」ではなく「あなたがたは喜んでいられる、喜び続けることができる」と勧めています。無理矢理に絞り出す喜びではありません。神が御子イエス・キリストによって私たちに与えてくださった喜びです。

パウロは、苦難と迫害の中にあるテサロニケ教会がイエス・キリストによって与えられた信仰と愛に堅く立っていることを何より喜びました。「いつも喜んでいなさい」とパウロが勧めているのは、主イエスによって与えられた信仰と愛に固く立っているからこそ「いつも喜んでいなさい」なのです。死も、いのちも、御使いたちも、支配者たちも、今あるものも、後に来るものも、力あるものも、高いところにあるものも、深いところにあるものも、そのほかのどんな被造物も、私たちの主キリスト・イエスにある神の愛から、私たちを引き離すことはできないのです(コ-マ8:38, 39)。神様が御子イエス様によって私たちに与えてくださった喜びは何にも勝る完全な喜びです。取り去られることも、薄まることも、小さくなることはありません。ですから、私たちは主イエスにあっていつも喜んでいられるのです。私たちを愛しておられる神様は、主イエスの十字架の恵みを通して私たちに語っておられます。「いつも喜んでいなさい」と。何か違う物事に喜びを求めようとするのではなく、神が主イエスによって私たちに与えてくださった喜びで「いつも喜んでいる教会」を目指しましょう。特に礼拝を大切にしましょう。私たちが集まって礼拝するときこそ、主にある喜びを確かめ合うことができるのです。

◆ 絶えず祈る教会

神が主イエスによって与えてくださった喜びで、私たちがいつも喜んでいるなら、その喜びから祈りが生まれるのです。この手紙の3章でパウロは次のように記しています。

【あなたがたのことで、どれほどの感謝を神におさげできるでしょうか。神の御前であなたがたのことを喜んで、そのすべての喜びのゆえに。私たちは、あなたがたの顔を見て、あなたがたの信仰で不足しているものを補うことができるようにと、夜昼、熱心に祈っています。どうか、私たちの父である神ご自身と、私たちの主イエスが、私たちの道を開いて、あなたがたのところに行かせてくださいますように。私たちがあなたがたを愛しているように、あなたがたの互いに対する愛を、またすべての人に対する愛を、主が豊かにし、あふれさせてくださいますように。そして、あなたがたの心を強めて、私たちの主イエスがご自分のすべての聖徒たちとともに来られるときに、私たちの父である神の御前で、聖であり、責められるところのない者としてくださいますように。アーメン。】テサロニケの信徒たちが主への信仰と愛に根ざして歩んでいる報告を聞いたパウロは、我がことのように大いに喜びました。そしてパウロは、更にテサロニケの信徒たちが整えられて成長できるようにと、夜昼、熱心に祈っていると告白しています。テサロニケ教会の皆と再会できるように、テサロニケの信徒たちの愛を主がますます豊かにして溢れさせてくださるよう、そして再びイエス様が来られるその時にテサロニケ教会の皆が神の前で聖なる者として整えられ成長しているようにと祈っています。パウロは神様が与えてくださった喜びで満ち溢れ、祈らずにはいられなかったのです。神が与える喜びは私たちの内で祈りとなって溢れてくるのです。

いつも喜んで、私たちから生まれる祈りは信仰による祈りです。絶えず祈るとは、「いつでもどんな時でも主なる神様に自らの心を開いて語りかける」ということだと思ふのです。神によって与えられた喜びでいつも喜んで、私たちの心は絶えず神様の方に向かって開いていくのです。神様に語りかけたくなるのです。声に出しても出さずとも心の中で神様に話したくなるのです。信仰による祈りです。神を賛美する祈りが生まれます。神の栄光を求める祈りが生まれます。いつでもどんな時でも主なる神様に自らの心を開いて語りかける、絶えず祈る生活になるのです。私たちが愛しておられる神様は、主イエスの十字架の恵みを通して私たちに語っておられます。「絶えず祈りなさい」と。

◆ すべて感謝する教会

「すべて感謝する」ことは、私本位、私の基準では難しいのですが、主イエス様にあつて私たちはすべて感謝できるのです。私たちにとって良い、快いと思うことのみならず、苦しい、辛いと感じることも、すべてのことにおいて感謝できるとパウロは教えています。この手紙を記しているパウロは、テサロニケに再訪したいと願いつつもサタンによる妨げによって叶いません。パウロは歯痒くてもどかしくて悔しい思いでいっぱいだったでしょう。テサロニケ教会もまた苦難と迫害の中でありました。心細くて苦しく悲しい思いを募らせてもおかしくありません。しかしパウロは、テサロニケの人々を思いながら祈るとき、神への感謝に溢れています。たとえパウロがテサロニケの人々に寄り添うことができなくとも、テサロニケの信徒は主イエスの愛に根差して労苦を厭わず、苦難と迫害の中で、イエス・キリストに対する希望を握りしめて忍耐していたのです。それは彼らが苦難と迫害を通して信仰が強められ、神の御前で聖であり、責められるところのない者、キリストに似た者として整えられる希望を持っていたからです。

私たちは悲しい、苦しい、辛いときには感謝できません。けれども祈りの中で神様に問い掛けてみてください。神様に祈り叫んでください。この試練を通して神様は私をどのように導いてくださるのか、どのように整えて成長させてくださるのか、神様に問いかけるのです。そして主イエス様が私の罪を贖うためにどれほどの忍耐を味わってくださったのか思い巡らすのです。苦難や試練の中で味わう忍耐によって、私たちは真実の愛に近付くことができます。【Ⅱテサ3:5 主があなたがたの心を開いて、神の愛とキリストの忍耐に向けさせてくださいますように。】私たちは主イエスにあつて、苦しみや試練の中でも感謝できるのです。すべてのことにおいて感謝できるのです。私たちが愛しておられる神様は、主イエスの十字架の恵みを通して私たちに語っておられます。「すべてのことにおいて感謝しなさい」と。

◆ 主イエスの十字架の恵みを通して

もし私たちが、自分の感情を何より大切に、自分本位、私基準でこの御ことばを受け取るならば、実践は困難です。重荷でしかありません。けれども【これが、キリスト・イエスにあって神があなたがたに望んでおられることです。】主イエス様の十字架の恵みを通して私たちは実践できるのです。私たちが愛しておられる神様は、主イエスの十字架の恵みを通して私たちに語っておられます。「いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。すべてのことにおいて感謝しなさい」と。主にあって喜び、祈り、感謝する教会は魅力的です。神様が望んでいる教会だからです。新しい年2025年、信仰をもってともにチャレンジしましょう。主にあって喜び、祈り、感謝しようではありませんか。